

## ICT分野における技術戦略検討会（第7回）議事要旨

1 日時 平成30年5月9日（水）10：00～12：00

2 場所 総務省第1会議室（10階）

3 出席者

（1）構成員（敬称略）

長谷川座長、中尾座長代理、宇佐見構成員代理、江村構成員、澤谷構成員、関谷構成員、田中構成員、眞野構成員

（2）ゲストスピーカー

佐藤 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 情報通信第1本部シニアエグゼクティブエンジニア

園田 国立研究開発法人情報通信研究機構 ナショナルサイバートレーニングセンター センター長

（3）総務省

今林国際戦略局長、椿国際戦略局参事官、布施田技術政策課長、山碕国際政策課長、中溝通信規格課長、田沼研究推進室長、杵浦技術政策課統括補佐

4 議事要旨

情報通信技術分野における研究開発の推進方策について

佐藤氏より資料7-1に基づき、園田氏より資料7-2に基づき、事務局より資料7-3に基づき説明が行われ、その後、意見交換が行われた。

主な意見は次のとおり。

### 【長期的なビジョン】

- 1年ぐらいのターゲットで何かゴールのようなものを設定し、その達成を目指すコンテストのようなものを実施してみてもどうか。
- 10年、20年のスパンで、情報通信の領域の変化を議論する必要がある。その仕組みがなければ、個別課題について議論しても、うまくいかない。
- 人材育成の観点で、NICTのSecHackなどのプログラムを実施することはよいことであるが、実施した後に参加者が他の企業と何かに取り組む、もしくは次のプログラムで教える側になるなど、次につなげるために何か実施することが重要

である。

- 検討会での議論がソフトウェア中心となってしまっているが、ハードウェアも重要である。長い目線でみると、世の中がソフトに力を入れていることもあれば、ハードに力を入れていることもあり、スパイラルのようになっているので、その部分も考慮し、長期的なビジョンをデザインする必要がある。
- 長期的なビジョンを考えるにあたっては、2030年、40年の世界を恐れずに予測し、予測できない部分については、適宜、目標を修正していくということが必要。
- 異なる分野が融合して、自らが変わっていくような視点が長期ビジョンであるとよい。

#### 【人材育成】

- S I e r の評価制度や人月単価での管理などが変わらないという点について、経営陣の意識改革やブレイクスルーが必要。
- ネットワーク技術のトレンドが、どこかが制御するような集中型あるいはそうでない分散型になるといった、技術のトレンドについて揺れ動きあった場合でも、それらのトレンドに対応ができる、本質の部分を捉えることができる人材を育成することが重要。

#### 【事務局資料について】

- 総論の部分は、5行、10行以内でメッセージを打ち出し、やめること、新たに加えること、注力することなどをグランドデザインとして出してほしい。
- 5ページ目に「どのOSSが優位に立つかなどの予測は困難であるものの」とあるが、これからOSS／コミュニティを新しく創っていくことが求められる、といったことを書くべきである。

#### 【その他】

- IT関連の業界では、プロジェクトを実施し成果が出るまでには、2年、3年はかかるものだと、経営陣に理解してもらうことが重要。
- コンテスト型研究開発を実施する際には、民間企業から資金を得るとするのは難しくなるかと思うので、企業側のインセンティブをうまく考える必要がある。
- 国際連携の強化というところで、大学と協力してコンソーシアムを作ることになった場合、学会などでできたコネクションを使うため、コンソーシアムが形成される過程でスクリーニングもされるので成功確率は高くなる。